

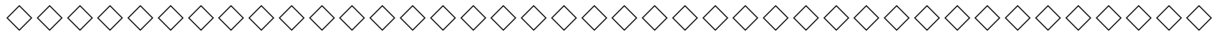


＜東部療育センター メールマガジン 2011年1月号＞

障害児（者）の方への情報提供を行い、生活支援を目指します。

発行 東京都立東部療育センター

<http://www.tobu-ryoiku.jp>



新年あけましておめでとうございます。皆様 新しい年をどのように迎えられましたか？

今年はメールマガジンの内容を充実していければと考えておりますので内容の希望やご意見等ありましたら、東部療育センターまで是非お寄せ下さい。

今回はボツリヌス毒素療法についての情報です。ボツリヌス毒素療法というと最近では美容・しわとりで聞くことが多いですが、重症心身障害児者への治療にも使用され、その有効性が報告されてきています。



＜ボツリヌス毒素療法について＞

医局から

ボツリヌス毒素は致死性食中毒を引き起こすと恐れられていましたが、1980年代に微量のボツリヌス毒素が神経ブロック治療薬になることが明らかとなりました。

ボツリヌス毒素療法は神経筋接合部（神経から筋への指令を伝達している部位）を遮断する化学的脱神経作用によって筋肉注射した筋肉のみを選択的に弛緩させる（筋肉の緊張をゆるめる）ことができます。その主な薬理作用は、アセチルコリン作動性神経終末においてアセチルコリン（神経伝達物質で神経刺激を伝える）放出を阻害すると考えられています。

脳性麻痺においては要所の筋肉を治療すれば簡便かつ安全に日常生活を改善させることができます。日本では2001年から痙性斜頸（頭頸部の筋緊張の異常によって頭部の位置が左右前後に傾いたり、肩が上がる、側わん等が様々な組み合わせで生じる疾患）が適応疾患となりました。さらに2009年からは脳性麻痺の下肢痙縮による尖足にも保険適応が承認されました。

重症心身障害児者においては姿勢の改善に伴って疼痛、呼吸、睡眠障害などを軽減する緩和ケア的な効果や介護負担の軽減もつなぐと報告されています。

ただし嚥下・呼吸障害がある重症心身障害児者は頸部筋への投与によって誤嚥性肺炎を起こす危険性があるため慎重な投与を要します。効果は通常3から5ヶ月後には消失するため反復投与が必要となります。

最近の報告ではボツリヌス毒素療法により体圧の偏りの改善、荷重面積の拡大、最大圧の減少が報告されており褥そう予防にも役立ちそうです。

ボツリヌス毒素治療にあたって最も重要なことは治療目標（不安定歩行の改善、疼痛の改善、装具適合性の改善、手術時期を遅らせる、拘縮予防など）を明確にし開始時期、評価、再投与、終了時期を患者や介助者と考えていくことと思われます。



今回のメールマガジンいかがでしたか？治療に興味のある方は主治医と相談してみてください。

昨年末のことになりますが、東部療育センターでは病棟や通所で盛大にクリスマス会が行われました。下記のアドレスから写真館をお楽しみいただけます。興味のある方はのぞいてみてください

http://www.tobu-ryoiku.jp/photo/photo_event.html



- ◆ このメールは msw_trc@mtrc.jp のアドレスより配信しております。
- ◆ 送信アドレスは配信専用です。お問合せやお手続きは下記よりお願いします。

東部療育センター メールマガジン
発行：東京都立東部療育センター <http://www.tobu-ryoiku.jp/>

個人情報保護方針：<http://www.tobu-ryoiku.jp/privacypolicy.html>
問合せ先：<https://www.tobu-ryoiku.jp/mailphp/inquiry.php>
〒136-0075 東京都江東区新砂 3-3-25

- 配信がご不要の方は、下記URLにアクセスして下さい
<http://www.tobu-ryoiku.jp/info/mailmagazine.html>

Copyright (C) 東部療育センター All Rights Reserved.